鹿児島の自然だより　第 228 号　　令和７年４月１日　鹿児島県立博物館発行

植物 88

ジオパークで見られる植物

植物担当　金本　直子

現在当館では，企画展「ジオパークに行こう！」を開催しています。今回の自然だよりでは，鹿児島県にある３つの日本ジオパークと，認定を目指している喜界島の計４か所にスポットを当て，そこで見られる植物を紹介します。

霧島ジオパーク

火山の溶岩が流れてきた土地は，土壌がほとんど無いため，水分や栄養分が少なく植物が生育するには厳しい環境です。そのような土地に最初に生えてくる先駆植物の１つがススキです。霧島山のえびの高原や甑岳の山頂火口部では，秋になるとススキの草原が一面に広がる様子を見ることができます。

甑岳のススキの草原

また，５月中旬頃には霧島山の各所でミヤマキリシマの花が見頃を迎えます。この植物は，火山特有の酸性土壌や火山ガスに強いという特徴をもつため，現在も噴煙を上げる硫黄山の斜面にも生育し，山肌をピンクに染めます。

御鉢火口淵のミヤマキリシマ

桜島・錦江湾ジオパーク

桜島の溶岩なぎさ遊歩道は，大正溶岩の溶岩原上にあります。遊歩道沿いには火山が噴火し，溶岩が流れ出て岩だらけになった土地に，草原ができ，その後に最初に生えてくる樹木の１つであるクロマツが多く生育しています。また，溶岩に目を向けると溶岩の割れ目から生えるホラシノブやタマシダなどの，乾燥に強いシダを見ることができます。

溶岩上のホラシノブとタマシダ

三島村・鬼界カルデラジオパーク

黒島は，鬼界カルデラができる以前からある古い火山島で，緑と水が大変豊かな島です。昨夏に黒島を訪れる機会があり，黒島最高峰の櫓岳に登頂しました。固有種のトカラカンアオイの青々した葉やアカガシ群落と共に，中腹の林床にはハランの群生が見られました。ハランは，昔から庭先や庭園などに園芸植物として植えられており，中国が原産の植物であると思われていました。しかし，1980 年代に野生のハランが黒島などで発見され，現在では原産地は日本だとされています。また，2016 年には新種の植物クロシマヤツシロランが発見されるなど，手つかずの自然が残されている島です。

林床に生育するハラン

喜界島

喜界島の荒木・中里遊歩道は，隆起サンゴ礁上にある海岸沿いの遊歩道です。残暑厳しい８月後半にこの道を歩いた際，海からの風や直射日光が当たり続ける厳しい環境で，這うように茎を広げるテンノウメや，葉が多肉質のソナレムグラを見ることができました。環境と植物の形状の関係に目を向けてみるのも面白いのではないでしょうか。

隆起サンゴ礁上のテンノウメ

ジオパークを訪れた際は，それぞれの環境でたくましく生育する植物にも目を向けてみると，さらに楽しい旅になるのではないでしょうか。